

授業科目名	スポーツ医科学特講演習		授業形態	演習	授業科目区分	応用科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	安田 修・赤嶺 卓哉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動の心肺機能や自律神経に及ぼす影響を心電図, 超音波装置, 心肺機能測定装置などを実際に用いて学ぶ。(双方型)					
成績評価の方法	学期末試験の成績(%) 出席状況(10%) 授業への取り組み状況(10%) レポート等の提出状況(80%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参考書	特になし(その都度プリントを渡す。)					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	火曜日 10時~11時30分 保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修 赤嶺 卓哉	安静時心電図: お互いの心電図を実際に記録する。				
2	"	運動負荷心電図: トレッドミルを用いる。記録及び解析				
3	"	ホルター心電図 1: 機器の取り扱いの説明及びホルターの装着 ホルター心電図 2: 記録及び解析				
4	"	ベクトル心電図: PREDICTOR IIを用いて記録及び解析				
5	"	ヒス束電位図: PREDICTOR IIを用いて記録及び解析				
6	"	体表面電位図: PREDICTOR IIを用いて記録及び解析(レートポテンシャルの有無 など)				
7	"	自律神経機能検査 1: R-R+間隔変動係数を用いる。 自律神経機能検査 2: PREDICTOR IIIによるR-R間隔のスペクトル解析(LF/HF)				
8	"	自律神経機能検査 3: ダイビング反射試験のR-R間隔変動について検討する。				
9	"	自律神経機能検査 4: 運動及び自律訓練のR-R間隔変動係数への影響を検討する。				
10	"	心エコー図 1: お互いの心エコー図をMモード法を用いて記録				
11	"	心エコー図 2: お互いの心エコー図を断層法を用いて記録				
12	"	心エコー図 3: お互いの左室流入血量などをドップラー法を用いて記録				
13	"	頸動脈エコー図 1: ドップラー法を用いて血流を測定する。 上腕動脈エコー図: 阻血による直径の変化を測定し、内皮機能を検査する。				
14	"	心機能評価: 実際に記録したエコー図を用いて心拍出量などを測定 運動負荷・心エコー図: トレッドミルを用いる。記録及び測定				
15	"	自身の心エコー図よりの計測および以上の実習で得た知識で研究プランを立てる。				